



# 赤十字奉仕団に就て

大島 孝平

去る七月八日より岩手県志戸平温泉で、日赤本社主催による東北七県及び北海道を加えての奉仕団指導者講習会が開催された。

本県からは新潟市より二人、十日町市で一名、郡部で私の計四人受講した。

受講生は全部で四十三名、午後一時四つの委員会を構成、私は第五班に属した。

記録委員に廻つたところが、各県より出たメンバーから記録委員長を半ば強制的に推せんされ、六十才の老齢に鞭うち委員の協力を得、漸くにして責任を果したことは、自から省みて冷汗三斗の思いであつた。ために三泊三日の会期中、大きな温泉をもつた寮であるにもかかわらず、わずかに夜遅く二回入つたに過ぎなかつた。

記録委員は計八名、各講師の講演速記をはじめ、各研究分科会の問題討議に関する質疑応答、体験発表等なかなか仕事が多く、人の顔と名前の見覚えの出来なかつたこと、小声で一才聞きたり。

かくて蒐録せられた材料は、勿論読み合わせの時間もないし、間違いがあつても脱漏があつても本部職員は絶体加筆しないというこゝとで、この程印刷を終了して来た。

左記はその一部であります。

## 奉仕団指導の基本的概念

日赤本社・会部長高木武三郎の講演概要

奉仕とは宗教の言葉で布施という、これには三つの財を施す財施(一)一般在家

赤い羽根の共同募金が皆さんの温かい御同情に依り達成されたことを、誠に厚く御礼を申し上げます。

昭和三十三年十月一日

中里 村長  
中里民生常務委員  
中里村民生委員一同

## (三十三年度) 共同募金完了報告

|                |         |
|----------------|---------|
| 収入             |         |
| 一、街道募金         | 二、〇三二円  |
| 二、興行募金         | 五八、七七〇円 |
| 計              | 七九、七九二円 |
| 支出             |         |
| 一、本年割当額        | 七一、八二〇円 |
| 差引残金           | 七、九七二円  |
| (十月一日完納)       |         |
| (村社会福祉協議会費へ繰入) |         |

尚村社協は本年の配分額は村助成により概ね左の如く配分する。

▽各種団体育成費 九、〇〇〇円

▽青年会婦人会五地区(青年会婦人会五地区) 一三三、〇〇〇円

(員野二、田沢三カ所)

▽未亡人会負担金 一〇、〇〇〇円

▽身障者協議会 一〇、〇〇〇円

▽自村火災見舞 一、〇〇〇円

その他の社会事業費として、(中里村民生委員協議会)

## 青年会の方針(其ノ二)

青年会長 村山 武

本紙前号において、青年会の方針の目的は、人格の向上にあることを述べた。そして我々は今やグループ活動の形式により、その具体的実践段階を明示し、かつ現実的運動に乗り出すに至つた。

九月下旬、我々の会の全幹部は、台風のただ中であつて夜間各部を廻り、部落青年諸君との懇談会をもつた。このことは我々のグループ活動が、あくまでも現存する青年の正確な実態の把握の上に打ち建てられねばならないという見解のもとに、実施されたものであり、その意味ではこの懇談会はある程度成功したものと考へてゐる。

まず、まわつてみた部落青年の実態は、

(一) グループ活動の真の意義を認め、とにかくやってみようという熱意にあふれているもの——一割

(二) グループ活動の意義も理解出来ず、唯過去の青年会の亡霊にとりつかれて、新しい時代の青年は如何にあるべきかを考へようとし

第一の部類に属する青年を一人でも多くすることをもつて使命と心得ている。もはや或る地域に於ては、グループ活動がゆきづまつているという訴えを聞かれるようになった。

私は部落懇談会の席上、この種のゆき悩みについて考えさせられたことは、決して意志のない人を最初からグループに入れてはならぬというこゝとであつた。

この種のゆき悩みについて、私は部落懇談会の席上、決して意志のない人を最初からグループに入れてはならぬというこゝとであつた。

## 論より実行せよ

動についても同様である。我々の社会をよくし、我々の社会から悪を開放する事業は、その社会を構成する個人の善への熱烈な意欲を持つて外はないことは、分り切つた話であるが、なお遺憾ながら我々の現実はそのうなつてはいないのである。青年会独自の事業は勿論我々のなすべきものであるが、ともかく我々の運動方針がグループ活動の徹底にあり、グループ活動によつて我々の基本目的に邁進しようとするものであつて、我々の「青年活動に何等の魅力を持たない」という諸君、また「青年会の活動は我々に何等の實際的利益をもたらすものではない。分

たれてゆくあの不潔な刺戟を求めて止まることを知らない類に属する者をまねて得々として自発的に何をしようという自覚も意欲もない者——五割以上おおよそ四つに分けられるようだ。

さて、然らばこの実態を承認し、如何なる方法に進めていくことが妥当であるか。

担金を徴収することは、全つたたくもつての外」とかの批判にもかかわらず、何等その方針を変更しようという明案がない。

もし我々の活動に魅力がないとすれば、それは如何なる理由によるものか。もし我々自身の活動に意欲あらしめようとせば、如何なる問題が惹起して来るか。もし我々の青年の活動として農業経営を研究することや、その目的をもつて集つたメンバーはまさにグループなのである。もし農業技術の研究、実験にその意義を認めようとして集るならば、そのメンバーもまたグループである。

であるうと、四五クラブであらうと、同じくそれが農民の幸福を増進される目的をもつてはいる限り、我々の活動と何の異なるものではない。村内同じ青年を対象とした幾つかの団体の青年部存在することは決して好ましいことではない。

しかし歴史的にみて分解脱皮の過程にある青年運動の現状を直視し、我々は今こそ青年各人が専断的指導者の私欲からなる不純な目的の為利用されるのでなく、真に我々個人々々の自発的意志に従い、確信を持ち自からの行動を律して行かねばならない時である。

我々の使命は青年個人々々に、グループ活動による新しい青年運動への覚醒を促すことであり、更に我々自身の人生を権威と確信に満ちた思想の指導理念に従つて、歩みを進め、開拓してゆかねばならないものと信じてゐる。

自分から離れて社会はなかに、社会を離れて自分がなく、社会を離れて王城を捨てて乞食になり、人の捨てた物を食べた。然して社会を離れて自分がないことを悟つた。自分自身によつて生きる人は自分によつて生きる。これが無我の法であつた。

宮沢賢治氏は「世界が幸福にならなければ自分が幸福になれない」独立した私はない。茲で社会運動も起し愛の力を社会全体に施す所謂奉仕活動が行わなければならないと説いた。

(二) 奉仕団活動の困難性、人間の利己性があつて邪魔をする。

今までの縦の関係があつた。君に忠、親に孝というような、強力な線があつたが、横の線が薄かつた。即ち社会的奉仕は少ない。日本人は社会公共の訓練がない。

赤十字奉仕団とは、何をなすのか、又何をしてゐるか。平和時に於いて赤十字の存在価値は、赤十字の仕事第一線に行ふことである。

最近オートバイが流行しその練習場に学校のグラウンドを使うのが多い。これはグラウンドもいたむし、遊んで

富永 ひさお

妻の黄金と五月の緑の微妙なコントラスト

それで、僕は車窓に旅の疲れをいやしたいつどこで、僕の想像や夢想が破られるにしても、この眼の前の美しい風景とそれを眺める僕の周囲と一体何を語ろうとするのだろう

汽車は平野の真中を轟轟の音を響かしながらゆるゆると進む。そこで僕は皮肉にも眼の前の女の表情を崩さざるを得ない

いつどこでその反響が返つてくるにしよう

